

科目名	異文化ゼミナール	科目コード	1152	単位数	2
担当者名	見附 陽介	開講セメスター	第2セメスター	開講年次	1年次
授業の方法	講義	実務経験	無		

● 授業のねらい

このゼミナールでは、異文化コミュニケーションに密接に関わる“多文化主義”と“承認”の理論を扱う文献を読み通し、プレゼンテーションとグループ・ディスカッションを通じてその内容のより深い理解を得るといった体験を重視する。大学のゼミナール形式の授業に対する発展的な取り組みを重視し、テキストの読解力に加えて異文化コミュニケーションに関わる理論的な思考力の向上も目指す。対象テキストとしてはA.センブリーニの『多文化主義とは何か』とC.テイラー、J.ハーバーマス他の『マルチカルチュラルリズム』を扱い、文化間の交流に関する政治哲学的、人間学的問題として承認、アイデンティティ、権利などについて学ぶ。

● 到達目標

- ・ 社会文化ゼミナールで学んだリーディング・ライティングのスキルをさらに向上させる。
- ・ ゼミナール形式の授業を通じて、グループ・ディスカッションができるようになる。なお、感染症の蔓延などによりオンライン授業となった際には、オンライン上で文章によるテキストディスカッションを行い、ディスカッション能力の向上を目指す。
- ・ レジュメの作成を通じて、テキストの読解と内容解釈の方法を習得する。
- ・ 異文化の間に生じる課題について理論的に分析する視点と解決に向けた規範を獲得する。

● 授業内容

- 1週目 オリエンテーション：ゼミの進め方と対象テキストについて
- 2週目 論文を読む：論点を掴む
- 3週目 論文を読む：内容を要約する
- 4週目 課題レポート作成：争点と自分の意見
- 5週目 『多文化主義とは何か』第一章第 節
- 6週目 第一章第 節 / 第 節 / 第 節
- 7週目 第一章第 節 / 第 節
- 8週目 第一章第 節 / 第 節 / 第 節
- 9週目 第二章第 節 / 第 節
- 10週目 課題レポート作成：内容を総括する
- 11週目 『マルチカルチュラルリズム』「承認をめぐる政治」（1）：緒論 / 第一節
- 12週目 「承認をめぐる政治」（2）：第二節
- 13週目 「承認をめぐる政治」（3）：第三節
- 14週目 「承認をめぐる政治」（4）：第四節
- 15週目 「承認をめぐる政治」（5）：第五節
- 16週目 レポートの講評および質問の受け付け（なお、期間中に休講があった場合は補講授業を行う）

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・ 対象テキストのうち各回の該当部分を参加者は全員必ず読んで予習をしておくこと（60分程度）。
- ・ また参加者はゼミのディスカッションの内容を踏まえてその都度テキストを読み返し復習することで、論文の主張の流れをきちんと把握しておくこと（60分程度）。
- ・ 担当報告者は自分の担当部分の内容をまとめたレジュメを参加人数分用意し、授業中に配布すること。報告後は該当部分についてグループ・ディスカッションを行うので、報告者以外の参加者は該当部分についてあらかじめ疑問点・質問などをまとめておき、積極的にディスカッションに参加すること。

● 成績評価の方法・基準

- ・ 担当報告(30%)、ディスカッションへの参加度(30%)、レポート課題(40%)の割合で総合的に成績評価を行う。なお、オンライン授業となった際にはレポート回数や課題の配点割合などに変更が生じる可能性がある。その場合は事前に通知する。
- ・ 出席は基本的にすべての回に出席することを前提とし、4回以上の欠席がある者は評価の対象としない。また自身の担当報告の回を無断欠席したものは失格とする。

● 履修上の留意点

- ・ 授業では、対象テキストの内容だけでなく、関連する事象などについても積極的に調べておくこと。
- ・ 期末レポートでは対象テキストから学んだことと関わりがありそうな現代社会の問題について各自が自由に見解を述べることを求めるので、自分なりのテーマを探しておくこと。
- ・ なお、この授業は対面での実施を基本とし、ハイブリッド形式は取らない。感染症の蔓延などにより必要と判断された場合には、対面形式を取りやめオンライン形式の授業形態を採用する。

● 課題に対するフィードバックの方法

課題に関して講評を行い、合わせて質問の受付や授業内容の再確認なども行う。

● テキスト

授業内で用意する。

● 参考書

- A.センブリーニ、三浦信孝・長谷川秀樹訳『多文化主義とは何か』白水社（文庫クセジュ）、2003年。
 C.テイラーほか、佐々木毅ほか訳『マルチカルチュラルリズム』岩波書店、1996年。
 その他、必要に応じて適宜授業内で紹介する。

● 更新日付

2022/02/02 09:58